

コロナ特徴変わらない／丁寧な説明必要

「5類」引き下げ

厚生科学審議会（厚生労働相の諮問機関）の感染症部会

が27日開かれ、新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けに関する見解をまとめました。「5類」に引き下げるなど、「ほかの5類感染症」と異なる特徴や社会へのインパクト（影響）があると指摘。「今回、露呈したのは（医療）人員が足らず平時でもわざわざの体制だったこと。新規感染者に対する対応ができる体力を付けないと」ができない」として、医療逼迫（ひっぱく）を防ぐ体制強化や国民に対する感染対策の丁寧な説明を求める注文が相次ぎました。

厚労省部会で注文次々

染防止対策の私権制限は最小限にすべきなどとして5類化に同意する一方、年に複数回流行するなど「ほかの5類感染症」と異なる特徴や社会へのインパクト（影響）があると指摘。「今回、露呈したのは（医療）人員が足らず平時でもわざわざの体制だったこと。新規感染者に対する対応ができる体力を付けないと」ができない」として、医療逼迫（ひっぱく）を防ぐ体制強化や国民に対する感染対策の丁寧な説明を求める注文が相次ぎました。

5類化に伴って臨時医療施設の設置根拠がなくなるため、東京都の担当者は「介護度が高い高齢者、障害者の長する選択肢も必要だ」と述べた。部会でまとめた見解は、感

染防止対策の私権制限は最小限にすべきなどとして5類化に同意する一方、年に複数回流行するなど「ほかの5類感染症」と異なる特徴や社会へのインパクト（影響）があると指摘。「今回、露呈したのは（医療）人員が足らず平時でもわざわざの体制だったこと。新規感染者に対する対応ができる体力を付けないと」ができない」として、医療逼迫（ひっぱく）を防ぐ体制強化や国民に対する感染対策の丁寧な説明を求める注文が相次ぎました。

べました。
見解で「個人の判断に委ねることを基本」とするとし、「國の責任」で周知徹底すべくとの意見も相次ぎました。

医療崩壊起じる懸念

日本医労連
森田書記長

新型コロナ感染拡大の第8波の中、医療機関や介護施設で集団感染が発生し、病院などで受け入れ困難な状況が続いている。国民の命をどう守るのか、真剣に向き合なうべき「定期把握」になると、この懸念が出来ました。日本医師会の釜瀬（かまやち）敏常主任理事は「定期把握の準備が3カ月でしっかりできるのか。」と問題です。

いまやるべきは感染拡大療崩壊が起こる懸念があり、ます。

和をめぐっては、適切なマスクの着用場面・方法などを

くの責任を果たすよう政治の責任を果たすことです。政府にはそうしなければいけないときに感染症法がいつそう緩和され、特定の医療機関だけの報告に基づく「定期把握」になると、この懸念が出来ました。日本医師会の釜瀬（かまやち）敏常主任理事は「定期把握の準備が3カ月でしっかりできるのか。」と問題です。

いまやるべきは感染拡大療崩壊が起こる懸念があり、ます。